

## 令和7年度 第4回小平市図書館協議会要録

1 日 時 令和7年11月6日（木）午後2時から3時23分まで

2 会 場 中央図書館 2階会議室

3 出席者 委員：落合会長、伊藤副会長、神子委員、栗林委員、阿部委員、石井委員、平向委員、堀内委員、渡辺委員、内田委員、三田地委員、計11名（欠席1名）  
事務局：松本中央図書館長、吉崎（中央図書館長補佐兼庶務担当係長）、岡村（花小金井図書館長）、菅家（中央図書館サービス担当係長）、田中（中央図書館資料担当係長）、小林（中央図書館歴史公文書・調査担当係長）、男澤（喜平図書館長）、計7名

4 傍 聴 なし

### 5 配付資料

- ・電子書籍サービスの運用開始について（資料No.1）
- ・小平市立図書館等の報告と今後の予定（資料No.2）
- ・月別館別貸出資料数（速報値）（資料No.3-1）
- ・月別館別登録者数（速報値）（資料No.3-2）
- ・広域利用市別貸出（速報値）（資料No.3-3）

### 6 議事

#### (1) 報告事項

- ① 電子書籍サービスの開始について（資料No.1）
- ② 図書館運営状況について
  - ・図書館行事等の報告と今後の予定について（資料No.2）
  - ・令和7年度上半期月別館別貸出資料数等について（資料No.3）
- ③ 令和6年度決算特別委員会について

#### 報告事項についての意見・質疑応答

##### ① 電子書籍サービスの開始について

委 員：電子書籍の利用説明について。15分間放置するとログアウト（接続解除）するのは少し不便に感じるが、いかがか。

事 務 局：ログアウトした場合は、再度、ログインすれば利用できる。

委 員：では、閲覧中に操作をし続ければ、時間は無制限に使用できるのか。

事 務 局：そのとおりである。

委 員：電子書籍について。当初の購入は700点、本年度末までに1,000点程度購入するとのこと

だが、来年度以降の購入計画はいかがか。また、一般的に電子書籍は紙の書籍より高額になると思うが、紙の書籍と電子書籍の購入割合について小平市の考え方を教えてほしい。

事務局：本年度、電子書籍の購入については、紙の書籍と同様に選書を行っており、一か月おおよそ 70 点から 100 店程度を購入し、蔵書を増やしていく予定である。

委員：本年度末時点で電子書籍の所蔵数が 1,000 点程度とすると、利用者が読みたい電子書籍を探す際に、一覧画面がないと検索が難しいのではないかと想定される。どのようなイメージとなるか。

事務局：検索する際には、まず利用者ログインが必要となるが、検索はジャンルや分類などでも絞り込みが可能である。

委員：大学図書館では、コロナ禍以降、急速に電子書籍に移行したところも多く、その後、電子書籍の値上げによって資料購入予算が追いつかなくなるといった事態も耳にする。小平市ではそのようなことにならないよう、紙と電子のバランスも大切にしてほしい。

事務局：電子書籍の特徴として、紙の書籍よりも価格が高いこと、また、公共図書館向けの電子書籍コンテンツには、最新の小説、文学といった作品が少ない。そのため小平市の電子書籍は、紙資料として購入するのが難しい学術書や事典のほか、ビジネス書の類を主軸とし、10 代から 50 代までの利用を促すべく、選書を行った。今回導入する電子書籍は、閲覧回数の制限のない買取型サービスであるため、将来的に蔵書として残るといったメリットもある。どの自治体でも、まだ電子書籍は新しいサービスであり、先行導入した他自治体の課題も自治体間で共有しつつ、かつ委員皆様の意見を聞きながら今後も研究していきたい。

委員：電子書籍サービスは、何年契約か。

事務局：契約は年度（1 年）であるが、効果測定という意味では、数年は活用し続ける見込みである。一定期間の検証をする中では、利用者の声にも耳を傾けたい。

委員：PressReader（電子新聞、電子雑誌）は海外の雑誌や新聞が主で、市民からの幅広いニーズがあったとは考えにくい、これを導入した経緯は何か。

事務局：10 代から 50 代の様々な世代の興味が促されそうな内容である点が大きな理由である。

委員：どのくらい使用されるか、今後報告してほしいと思う。

委員：電子書籍の年間の予算規模はどの程度か。また、紙の書籍との購入費の割合は今後どうなるのか。電子書籍の導入によって、紙資料の購入費が減少しないか懸念している。

事務局：本年度、Kinoden（キノデン）は約 630 万円、PressReader（プレスリーダー）は約 110 万円、電子書籍の合計で 740 万円ほどである。一方、紙の資料購入は約 3,900 万円である。電子書籍について、本年度は国からの補助金を受けての導入となるが、来年度以降は一般財源で賄う。来年度の予算編成はこれからであるが、市全体の編成方針に沿って決定されることとなろう。厳しい財政状況が続く中、財政当局と調整を図っていく。紙と電子の資料購入の比率については、電子書籍の普及状況や利用状況などを見ながら考えていくものと思っている。

委員：本年度の電子書籍は、どのように選書を行ったのか。また、今後、市民等のリクエストが反映する仕組みや、その予定はあるか。

事務局：電子書籍も紙書籍と同様に、選書担当の職員による選書を行った。導入する Kinoden（キノデン）が実用書に強みを持つことから、傾向として、児童書よりも一般書が多くなった。

委員：電子書籍の中には、中学生が活用できそうな資料が一定数ある。例えば、中学生向けの選書という視点で、小中学校の意見を受け入れてもらえる余地はあるだろうか。

事務局：学校司書及び仲町図書館を通じて、今後、学校の意見を集約したいと考えている。また、将来的には、学校連携という枠組みの中で学校向けのサービスができる状況であれば相談していただきたい。

会長：小平市の電子書籍の導入にあたっては、本協議会でも5年以上、動向を注視しながら丁寧に検討を重ねてきた経緯がある。結果として昨年度、小平市は他市との差別化を図るようなコンテンツに目を向け、今回の内容に至ったと報告をもらった。

小平市の電子図書館の考え方とは、単に電子書籍を購入し提供するのではなく、紙の資料ではなかなか見れない資料や、小平市の行政資料、さらには充実したデジタルアーカイブのコンテンツも含めて、それらすべてを総括して「小平市電子図書館」とする概念である。公共図書館向けに提供される、いわゆる「ライセンス型パッケージ電子図書」ではなく、選書という過程を経て購入し、蔵書としてコレクションする。蔵書構成を意識した電子図書館であってほしい。これが、長年、市民や市議会から要請を受けながらも、協議会として導入を慎重に検討してきた、大切な考え方である。

本協議会として今後も意見を出していきたいと思っているので、皆様にご協力願いたい。

## ② 図書館運営状況について

- ・図書館行事等の報告と今後の予定について
- ・令和7年度上半期月別館別貸出資料数等について

委員：資料3-1の月別館別貸出資料数について、多くの館で前年度よりも減少しているが、理由がわかれば教えてほしい。

事務局：利用者自体が減っているということが考えられる。

委員：利用者を増やすための対策は、行っているか。

事務局：児童サービスにおいては、イベント企画等を行っている。

会長：利用者が減ることは残念である。課題があれば分析し、例えば蔵書に魅力があれば来館者は増えると思うので、各館の蔵書構成を見直すなどの方策も考えてほしい。

委員：春と秋に実施される読書ノートの配布については小学生までが対象だが、大人向けにも読書手帳があると嬉しい。ぶるべーキャラクターなど、魅力的なデザインであれば、私は有料でも欲しいと思っている。

会長：利用者が増えるための良い方策だと思う。

事務局：毎年度、春と秋に読書ノートをこどもたちに配布しているが、本年度12月からは、小・中学校中学年以上を対象に冊子（読書ノート）を作成し、配布する予定である。

会長：読書手帳の配布については、中学校等にポスターやチラシを配るなど、目に触れるよう努力をしてもらいたい。

事務局：開館50周年の企画として作成し、読書マラソンという意味合いで実施するが、今回は、

小平図書館友の会から寄贈の協力もあり、通常は有料販売を行っている図書館グッズを限定プレゼントとして用意する。読書手帳に20冊分の感想を書いた人にプレゼントを行う予定で準備しているので、広く周知したい。

なお、小平図書館友の会からの寄贈品は、現在、図書館全館で販売しているオリジナルのクリアファイルとマスキングテープである。今回は寄贈で提供いただくが、今後につながる取り組みとして、大人向けプレミアムの要望やアイデアがあれば、ご意見をいただきたい。

委員：児童向けのスペシャルおはなし会の際には、図書館職員が手づくりで素敵な折り紙やおもちゃをこども達にプレゼントしている。

委員：私自身は、本を購入した際に本屋で装備してもらうブックカバーの紙を貰えたら嬉しいと思う。特別高価なものでもなくても、2種類ぐらいのサイズで用意してあれば十分。借りた本も、汚さずに綺麗な状態で返却ができる。

今も、図書館グッズの販売は全館で行っているのか。知らない利用者もいると思うが、宣伝してはいいか。

事務局：開館40周年記念の2018年に、武蔵野美術大学の視覚伝達デザイン学科の学生と連携し、フクロウをモチーフとした小平市図書館のオリジナルグッズ（トートバッグ、クリアファイル、マスキングテープ）を作成。商品化し、各館で販売を行っている。中央図書館では、2階参考室で販売している。なお、現在、トートバックについては持ち手が取れてしまったことがあるため、今後の販売を控えたい。

委員：広報はしているのか。

事務局：販売当時は広報をしていた。展示方法を考えて、利用者の目に触れるようにしていきたい。

委員：自身は旅行の際に図書館に立ち寄ることがあるが、図書館によってはオリジナルエコバックや、缶バッジを作成しているところもある。出版社でも作っていたりと、ファンやマニアによく売れているようだ。缶バッジを作るリース機器もあると聞く。ノベルティとして配布するところもあり、例えば読書冊数に応じた数が貰えると、宣伝効果が高いと思う。

会長：缶バッジは色違いであっても良い。集めたいと思う。

委員：いま、ポイ活といってポイントを稼ぐ取り組みが流行っている。以前、小学校でも行ったことがあるが、例えばしおりを何色か色違いで用意して、読めた冊数によって色をステージアップするようなことであれば、お金もかからず、良い動機付けにもなる。

会長：大人も図書館に来たくなるようなアイデアを考え、広報してもらいたい。

委員：40周年記念ではグッズ販売などを行ったようだが、50周年となる今年は、そのよう取り組みはしなかったのか。

事務局：昨年度に検討を行ったが、予算措置が叶わなかった。そこで、本年の開館記念日である5月18日に、職員が作成したしおりを全館カウンターで配布した。

委員：11月1日からシステムが新しくなったが、更新後、利用者からの声はあったか。

事務局：以前のシステムの方が使いやすかったという声や、使用方法についての問い合わせは一

定数あった。苦情で電話が止まらないというようなことはなかった。我々の想定以上にスムーズに利用されている印象である。

なお、開館当日の11月1日、午前10時の開館と同時に図書館ホームページもリニューアルとなったため、利用者からの閲覧・検索が集中し、図書館カウンターで使用するシステムの動作環境に影響が出た。一件の返却に10秒以上かかる事態となったが、システム事業者がアクセス制限をするなどの対策を講じた結果、正常の動作環境に戻った。

委員：個人的には画面が見やすくなったと感じている。

委員：明るい感じになったと思うが、まだ慣れない。

委員：図書館システムへのアクセスログのデータは蓄積しているのか。

事務局：利用者数は把握しているが、詳細な個別の履歴は把握していない。

事務局：アクセスログを取るには、別途サーバーが必要になる。小平市のホームページでは分析ができるようになっているが、図書館に関しては読書についての個人情報収集にあたる可能性も含むため、取り扱いが難しい。

委員：個人の情報についてのアクセス履歴は不要だと思うが、何人がアクセスしているか、何を検索したかを分析することはできないか。今後、様々な方面で電子化を進めるのであれば、必要かと思う。

事務局：図書館で持っているところはないのではと思う。

会長：電子書籍のアクセス数は把握できないのか。

事務局：電子書籍のアクセス数は把握できる。男女別や年齢構成については難しい。

事務局：ホームページのアクセス数は把握しており、令和6年度は52万689件であった。

## （2）協議事項

なし

## （3）その他

- ・喜平図書館の臨時休館について（資料なし）

事務局：喜平図書館は、給水設備等の改修作業のため、令和7年12月1日（月）から12月7日（日）まで臨時休館する。また、喜平図書館集会室も同様に休室する。  
広報については、市報、市ホームページ、ポスター等で周知していく。

（次回、令和8年1月22日（木）午後2時から開催予定）